

希望のぼび、小、中学校で卒業式

卒業式シーズンの3月、町内の幼児センター、小、中学校から227人の子どもたちが新しい門出に向けて学び舎を旅立ちました。



三小7人(同3人増)、東川中学校は75人(同14人減)。幼児センターは74人(同1人増)のお友だちが卒業しました。

3月18日、東川小学校(大久保善邦校長)では、町内の小学校とともに第117回卒業式を行いました。

男子は真新しい中学校の制服、女子ははかま姿も多く、きりりと6年間の成長の姿を後輩にお披露目。「将来は運輸関係の仕事をしたい」「海外で活躍できる大人になりたい。だから中学校では英語の勉強を頑張ります」「助産師になる夢をかなえるために勉強を

頑張りたい」「建築士になりたい」「将来の夢は小説家です」「薬剤師になって人を助ける仕事をしたい」「警察官になって困っている人を助きたい」など一人ひとり将来の夢を披露し、大久保校長から卒業証書を受け取りました。

大久保校長は「東川で学んだことを元に、世界で活躍する人になってください。力いっぱい、さあやろう」と英語を交えてはなむけの言葉を贈りました。

第70回卒業式を迎えた東川中学校(尾崎朋子校長)では、75人が義務教育を終えて学び舎を巣立ちました。

尾崎校長は、江戸幕末期の安政年間、早世した吉田松陰、橋本左内という2人の蘭学者を例に挙げ、「どう生き

壁面にある大きな木製のリースの森。園児たちは、木製の葉っぱに自分の名前を書いて大木の幹に貼って卒業します。森の大きな木は、子どもたちの葉っぱがいつばい茂り、森で暮らす仲間への恵みの森に成長します。



この葉っぱは小学校卒業の時、みんなの手元に戻ります。小学校に入ったら、いっぱい遊んで、いっぱい勉強しようね。6年後、自分の葉っぱが戻る日を楽しみに。

幼児センターで卒園前にもりー葉せしモノー

3月7日、幼児センター(伊藤和代園長)で卒園児がロビーの壁にある「ももんが森の大きな木」に「ももんが葉」の新しい葉をつける記念樹せしモノーを行いました。

今年卒園したのは74人のお友だち。木製の葉っぱに一人ひとり自分の名前を書き込んで、森の木の大きな幹に

貼っていました。

みんなじょうずに名前を書けたかな? きちんと漢字で書けたお友だちがいつばい。先生が足元をしつかり押さえているから、高いところもへっちゃら。手を伸ばして「よいしょ!」ときれいに貼れました。

「ももんが森」は、同園の中央廊下

文化賞イベントサポートクラブ、スポーツ賞で金澤さん

町教育委員会は28年度の東川町文化賞に東川イベントサポートクラブ(永澤宏二会長)、スポーツ賞に3町内会の金澤重美さん(65)の1団体1個人を選定し、3月22日、農村環境改善センターで授賞式を行いました。



イベントサポートクラブの渡辺さん(左)とスポーツ賞の金澤さん

この間、同中バドミントン部は全道中学校大会ダブルス2位(平成2年)、全国中学大会ダブルス出場(同12年)と実力を発揮。金澤さん自身も町内郵便局長杯に36回出場、全町バドミントン大会に44回出場するなど、町内のスポーツ振興、青少年健全育成に寄与してきました。

東川町文化賞・スポーツ賞審議会(青木哲也委員長)の答申を受けて決まりました。

台湾・ジャオさん、韓国・チェさんがアジア映画を展覧

2月15日、台湾・台北フィルムコミッションディレクターで台北フィルムアカデミー代表の饒紫娟(ジエニフアー・ジャオ)さんと、韓国・釜山フィルムコミッションディレクター、アジアフィルムコミッション・ネットワーク会長、釜山フィルムコミッション業務執行取締役のチェ・ユン(弼彦)さん2人が来町し、フィルムコミッション活動のアジアの現状と展望を講演しました。



台北フィルムアカデミーのジャオ(饒)代表

本、制作コンペティションも行っている。今では毎年700本以上の作品を受け付けています。台北と連携を持っている東川と一緒にロケをし、共同で映画製作したい。台北フィルムアカデミーで撮影したフィルムを放映したい。映画祭に出ることたくさん友達が出来、たくさん共同制作のチャンスが生まれます」などと話しました。

チェさんは2016年までに22万円で千100本のフィルム制作にかかわってきたそうです。

「アジアの映画市場は中国が急速に成長している。アジアの映画に影響を及ぼしてきたのは日本だが、今限界を迎えている。製作費が拡大するばかりでなく、デジタル化に伴って、映画館に向かなくなるとも家庭やパソコンで映画を観ることが出来るようになった。国と国との市場を拡大する必要がある。国と国、地域と地域が連携することで市場が拡大します」などと今後の映画製作の展望の一端を話しました。